

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路実現
評価指標	難関私立大学進学者数の増加
計画名	アドバンス学習ルーム

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する (1) 進学実績の向上 ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようなエリアの整備改編を行う。 イ 現在行われている土曜講習だけでなく、土曜自習室の開放を行う。 ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。 ※難関8私大・中堅私大の延べ合格者数（平成26年度生132名）を27年度に160名にする</p>
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で20名その他4校で50名をめざす。 （平成27年春上位4校2名、その他4校24名） ・中堅私立大学10校の延べ合格者数を200名をめざす（平成25年春、150名）
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・自習・調べ学習・プレゼンを実践する環境整備 ・校内Wi-Fiを使ったE-Learningの構築と実践 ・Web環境の整った自学習スペースの確保
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担：経営委員会：教頭・首席(2)・指導教諭 取組みの実施者： ・アドバンス委員会：首席と進路指導部が中心になってアドバンスエリアの授業を担当している教員。 難関私学文系受験に向けた生徒一人ひとりの到達状況を検証 ・授業評価委員会：指導教諭が中心となった教科代表が集まり、授業評価と学校教育自己診断の分析を実施。 また指導教諭による自前の校内研修会を実施。</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者集会を開催し、校内Wi-Fi導入についての説明を実施、最終的に運用を開始した。 ・Moodleサーバーに教材をアップロード、活用に入った。アップロードした教材は国語（外部講師による授業の動画形式で「基礎からの現代文・古文」、「実戦古文」、「スタート現代文」、「ステップアップ現代文」、「初めての小論文」）、小テスト形式でアドバンス古典、英語（外部講師による授業の動画形式で「Basic English」、「Primary English I」、「Primary English II」）、小テストと静止画形式で「総合英文法A」、「総合英文法B」、「総合英文法C」、小テスト・動画・穴埋め形式で「語学研修準備講座」
成果の検証方法 と評価指標	<p>①学校教育自己診断で「宿題や課題が良く出される」平成26年61%⇒平成27年度70%へ。 「予習や復習が欠かせない」平成26年度33%⇒35%へ。 ②難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で10名その他4校で30名をめざす。 ③中堅私立大学10校の延べ合格者数を160名をめざす。</p>
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <p>①学校教育自己診断で 「宿題や課題が良く出される」平成26年61%⇒平成27年度70%へ（平成27年度66%）（△）。 「予習や復習が欠かせない」平成26年度33%⇒35%へ（平成28年度28%）（△）。 ②難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で10名その他4校で30名をめざす （平成28年度、上位4校[関関同立]で22名、その他4校[産近甲龍]で73名）合計95名（◎）。 ③中堅私立大学10校の延べ合格者数160名をめざす（平成28年度153名）（△）。 ※難関私立大学にチャレンジする層が増え、受験結果（難関私立大学）も目標を上回ることができた分、中堅私立大学の受験者数自体が減少した。</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室としての活用が定着したことが、今年度も難関大4校の進学実績の維持につながった。次の段階は、Moodleサーバーに入っている教材の利用が伸びず、利用を促す「負荷」の検討に入らなければならない。単語及び5～10問程度の小テストを週3～4回与え、利用の定着を図る。 ・学年とタイアップし、長期休暇時における「学習する空間」として利用を促し、引き続き利用者を増やす努力を行う。